



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

真夏の夜空に大輪の花

8月13日に市制施行130周年を記念する前橋花火大会を3年ぶりに開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、河川敷の観覧席を事前予約制で販売、訪れた人たちは、久しぶりに真夏の夜空に咲いた、1万5,000発の大輪の花を楽しんでいました。



空襲の慰霊市内各地で

8月5日に前橋空襲の一斉慰霊を実施。前橋八幡宮（本町二丁目）など、市内各所で犠牲者に追悼の意を捧げました。また、市芸術文化れんが蔵では「地域から戦争を考える」を開催。講演や紙芝居、演奏、資料の展示などで戦争の残酷さや平和の重みを伝えました。



大沼湖畔に灯りともる

8月6日に「赤城山らたん祭り」を大沼湖畔で開催。小笠原流宗家による奉納弓術やランタン絵付け、カヤックなどの体験型イベントを実施しました。みなかみ町の協力で、台南市の子どもたちが作成したランタンも飾り、台南市と縁が深い赤城山に灯りをともしました。



あかぎふくろう一家
松本良美さん・51歳
千代田町四丁目

つながりでフクロウも自分も幸せに

手相カウンセラーの松本さんは、5月に13羽のフクロウと共にフクロウと創る自分だけの極上空間をコンセプトとした「MAISON de 梟」を千代田町にオープンした。きっかけは2年前、都内でフクロウカフェのオーナーを務めるお客さんからの、コロナ禍で閉店を余儀なくされているという相談だった。「動物に関わる仕事をしていた訳ではありませんでしたが、救出を真っ先に考え引き受けることにしました」

そこで、フクロウたちから自然との共存の必要性を学び直そうという趣旨で立ち上げたあかぎふくろう一家で預かることになった。

「自分には、フクロウの知識



やマンパワーがある訳でもなかったの、移住コンシェルジュや猛禽類に関わる仕事をしてきた人などに相談しました。そこから、つながりが拡大していき、いろいろな人に支えられながらMAISON de 梟をオープンできました」

人とのつながりによって、自分の意見を持たないといけないことにも気付かされたという。「自分たちが豊かにならないとフクロウも幸せになれないと感じました。フクロウのおかげで縁が広がりが今があるので、人との縁で可能性が広がっていくのをこれからも楽しみたいです」

フクロウの幸せを願い活動した2年間で松本さんに、フクロウたちは安堵していた。

認知症は誰かがなり得る病気。安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、自分ごととして考えていくことが大切です。今回のテーマは「認知症の人との接し方 認知症の支援」です。

認知症の最大の危険因子は加齢ともいわれ、高齢化の加速に伴い、認知症の人の増加が見込まれています。一方で、65歳未満の人で認知症と診断される若年性認知症の人もあります。

認知症の症状は記憶障害だけでなく、一人一人症状の濃淡もさまざまで、個人差の大きい疾患です。「認知症だから」とひとくくりにせず、本人の困りごとや思いに耳を傾けることが大切です。認知症について正しく理解し、本人の苦しいことをサポートできる人が



Vol.3
認知症の人との接し方
認知症の支援

認知症ケアパス
認知症に関する情報を掲載しています

長寿包括ケア課
027-898-6133

40歳以上の在宅生活をしている人が、認知症状などで介護や対応に困っている場合、「認知症初期集中支援チーム」が家庭へ訪問してサポートします！

例えば…

- ・介護サービスを利用してほしいけど、なかなかうまくつながらない
- ・物忘れが進んで、薬やお金の管理、家事動作などがうまくできなくなってきた
- ・認知症による症状が強く、介護や対応に困っている
- ・認知症疾患の診断を受けてほしいが、うまく受診につながらない など

最近、おばあちゃんのもの忘れがはじまったようで、どうしたらよいかわかっています。

それは心配ですね。認知症初期集中支援チームが訪問して、詳しく話を聞いてみましょう。

「認知症ケアパス」より

周りにいることは、安心して暮らして続けられる地域づくりにつながります。

認知症の相談機関である「前橋市認知症初期集中支援チーム」は、認知症が疑われる人やその家族に対し、早期診断・早期対応に向けた支援を集中的にすることを目的とした、医療・介護の専門職のチームです。認知症の医療や介護の専門知識と経験のある専門職が従事しています。チーム員が家庭訪問し、受診や介護サービスにつなげるための手伝いや、対応方法について家族へアドバイスします（左図）。申し込みは、担当地区の地域包括支援センターまで。認知症ケアパスにも、若年性認知症の情報を掲載しています。